

第1部 基調講演

2030年の大阪に向けて
一都心・臨海部の再生と広域ネットワーク大阪市 都市計画局
局長 川田 均氏

人々の暮らしを重要視した居心地の良いまちづくり。本日は、都市核の再考と大阪の都心の再生に向けた方向性を中心に、統合ゾーストIR、2025年の万博の候補地となっている臨海部の将来像と関西全体の起爆剤となる公益交通インフラ、最後に国際的にPRに向けて取り組みについてお話をします。まず都市核の再考についてですが、居心地が良く、上品な街を作っていくことを経営目標としていきます。大阪と2つを考えると、呼ばれ、日本で一番人口が多かった90年前の大阪では、景観を大事にし、市民の安全・衛生の向上のために下水の整備を行っていました。そのような先輩方の思いを受け継ぎながら街づくりを行って

います。またグローバルなビジネスや集客ができるようにするため、国際バカロレアのた広場として再編しようと考えています。中之島エリアでは高等教育機関の誘致や国際会議場の展示機能の強化を中心に行っています。船場エリアについてはシアハウ

スやインキュベーションなどを活用しながらストックを活用できる街を目指しています。天満橋、OBP(大阪ビジネスパーク)京橋辺りは医療系が強いエリアとなっており、臨海部の産業については夢洲の西側にメガソーラー事業を行っていますが、それに伴いEV車の使用済み蓄電池を再利用できないかと実証実験をしています。広域交通インフラについては、淀川左岸線を島屋から豊崎、新御堂筋から近畿自

す。建設予定の建物は地上38階地下3階、高層190m、低層85mの複合施設で、用途としては百貨店、オフィス、カフェ、レストラン、画、阪急ホールディングスと阪神電気鉄道が経営統合した2006年下半期から計画されたプロジェクトです。計画地で、延床面積はJR「大阪」駅の南側、約26万㎡と非常に大型の「大阪神ビルディング」とその南側に立地する「新阪急ビル」で行われ、その2棟を一体的に建て替える計画が当プロジェクトです。当プロジェクトが計画されているから、か

れ、これ10年経ちますが、万7000坪が貸床となっており、またBCP対応の設備機器導入やオフィスのタイヤモンド地区を中心とした地域課題の解決や「地域価値の向上」、

「新たな地域価値の創造」にも取り組んでいく次第です。ダイヤモンド

II期の建設工事が行われている間は、I期の建設部分が通常営業を行います。当プロジェクトの完成は平成34年(2022年)春頃を予定しています。また「梅田1丁目1番地計画」では、周辺公共施設の整備も実施します。敷地周辺の地下道の整備やバリアフリー化はもちろん、御堂筋歩道や東西地下道の拡幅、美装化及び日常維持管理まで行っています。梅田新歩道橋の美装化、耐震性向上も

必要があるということ、道路を大きくして街路を大きくすることも必要となります。緑については広場や公園に緑地を広げていくことを計画しています。都市景観を創造・再生すること、直してエリアごと

にルールを変えて特徴を出していくことを来年度から行っています。各エリアについては、キタからミナミの御堂筋界隈では、住・食・遊を機能として活用できる街を目指しています。天満橋、OBP(大阪ビジネスパーク)京橋辺りは医療系が強いエリアとなっており、臨海部の産業については夢洲の西側にメガソーラー事業を行っていますが、それに伴いEV車の使用済み蓄電池を再利用できないかと実証実験をしています。広域交通インフラについては、淀川左岸線を島屋から豊崎、新御堂筋から近畿自

90年前「大大阪」時代の街づくりを次代へ

イノベーションを生み出せるグローバルな都市を目指す

第2部 特別講演

梅田1丁目1番地計画
(阪神百貨店建替プロジェクト)阪神電気鉄道
不動産事業本部 部長
森永 純氏

「梅田1丁目1番地計画」は、阪急ホールディングスと阪神電気鉄道が経営統合した2006年下半期から計画されたプロジェクトです。計画地で、延床面積はJR「大阪」駅の南側、約26万㎡と非常に大型の「大阪神ビルディング」とその南側に立地する「新阪急ビル」で行われ、その2棟を一体的に建て替える計画が当プロジェクトです。当プロジェクトが計画されているから、か

れ、これ10年経ちますが、万7000坪が貸床となっており、またBCP対応の設備機器導入やオフィスのタイヤモンド地区を中心とした地域課題の解決や「地域価値の向上」、

「新たな地域価値の創造」にも取り組んでいく次第です。ダイヤモンド

II期の建設工事が行われている間は、I期の建設部分が通常営業を行います。当プロジェクトの完成は平成34年(2022年)春頃を予定しています。また「梅田1丁目1番地計画」では、周辺公共施設の整備も実施します。敷地周辺の地下道の整備やバリアフリー化はもちろん、御堂筋歩道や東西地下道の拡幅、美装化及び日常維持管理まで行っています。梅田新歩道橋の美装化、耐震性向上も

必要があるということ、道路を大きくして街路を大きくすることも必要となります。緑については広場や公園に緑地を広げていくことを計画しています。都市景観を創造・再生すること、直してエリアごと

西日本最大・最新スペックの複合施設平成34年完成予定

エリアマネジメントにも注力



グランフロント大阪

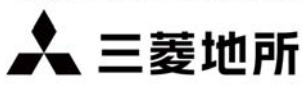


ロジクロス神戸三田



大阪アメニティパーク

人を、想う力。街を、想う力。



関西支店

<http://www.mec.co.jp/>

歴史と地域特性を生かした活動

第53回 ビル経営サミットin関西 速報

第4部 パネルディスカッション

オーナーによる地域活性化の取組 現状を認める勇氣 まちの価値とビルはシンクロする

本戸一夫氏と濱太郎氏は、大阪で繊維街として知られる井池エリアにビルを所有しオーナーとして貸ビル業を営むとともに、地域の「一員」として「井池繊維会館」という建物を活用した地域活性化の取り組みに携わる人物。末村巧氏はそこにキーパーソンとして携わっている人物。井池エリアの現状とビルの再生を軸にした活動を紹介する。

パネリスト



大阪繊維共同販売所
濱 太郎氏

地域の共有財産であるビルを再生し街に活力を

繊維の街として栄えたエリア近代建築を地域の活力の源にまずは自己紹介をお願いします。

本戸 昭和24年に井池の御問屋に生まれました。井池は昭和50年ごろまでは木造2階建ての商店が建ち並び地方の小売店が井池まで仕入れに来ていたのですが、そのころに千里ニュータウンや阪神高速「船場センタービル」の開発が始まり、当社も木造2階建ての商店を「船場グランドビル」に建て替えました。

濱 私どもは明治時代から洋家具の製造販売業を行っており、太平洋戦争後も細々とやっていました。年々手が足りないことから昭和20年代当時

パネリスト

濱 戦前は家具の街だったところから戦後は繊維街として栄えましたが、繊維街の衰退とともに空室も増えたもののテナントは繊維業界が占めていました。ビル経営としては繊維関係のテナントがほとんどという街です。

木戸 「井池繊維会館」は、大正11年に銀行として建てられたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。

木戸 「井池繊維会館」は、大正11年に銀行として建てられたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。

木戸 「井池繊維会館」は、大正11年に銀行として建てられたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。

木戸 「井池繊維会館」は、大正11年に銀行として建てられたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。

木戸 「井池繊維会館」は、大正11年に銀行として建てられたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。



ニコニコ
代表取締役
木戸 一夫氏

木戸 「井池繊維会館」は、大正11年に銀行として建てられたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。

木戸 「井池繊維会館」は、大正11年に銀行として建てられたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。

木戸 「井池繊維会館」は、大正11年に銀行として建てられたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。かつては近代建築に価値が見え、管理する井池繊維会館は地域の人が出資して地域の活性化に貢献しているという意識が設計されたビルです。

来場者の声



東上ビルディング
常務取締役
榎木 弘氏

利益追求だけではできない取組

パネリストの濱太郎氏と木戸一夫氏は、大阪で繊維街として知られる井池エリアにビルを所有しオーナーとして貸ビル業を営むとともに、地域の「一員」として「井池繊維会館」という建物を活用した地域活性化の取り組みに携わる人物。末村巧氏はそこにキーパーソンとして携わっている人物。井池エリアの現状とビルの再生を軸にした活動を紹介する。



京阪建物
テナント営業担当
前田 篤氏

空室期間の利用法が興味深い

パネリストの濱太郎氏と木戸一夫氏は、大阪で繊維街として知られる井池エリアにビルを所有しオーナーとして貸ビル業を営むとともに、地域の「一員」として「井池繊維会館」という建物を活用した地域活性化の取り組みに携わる人物。末村巧氏はそこにキーパーソンとして携わっている人物。井池エリアの現状とビルの再生を軸にした活動を紹介する。

民間主導の古い建物の再生



志成産業
代表取締役
平本 隆之氏

大阪はこれまで古い建物を守る取り組みが行われてきたが、近年では民間主導で古い建物の再生が話題になり、各目的の所有が狙いとしてありま